

※主催分科会の追加に伴う、幹事会再提案

公開シンポジウム「女性参政権70周年 ジェンダーの視点から選挙制度を問う」
の開催について

- 1 主催 日本学術会議社会学委員会ジェンダー政策分科会、法学委員会ジェンダー法分科会、政治学委員会政治過程分科会
- 2 共催 日本政治学会ジェンダーと政治研究部会
- 3 日時 平成28年11月12日（土）13:00～16:30
- 4 場所 日本学術会議講堂
- 5 分科会の開催：開催予定
- 6 開催趣旨：女性参政権70周年の年にあたって、女性議員割合が国際的にもきわめて低い状況が続いている日本の現状を、ジェンダー政策およびジェンダー法の観点から分析するとともに、選挙制度の改革という課題を視野に、国際社会の選挙制度の動向もふまえつつ、報告および討論を行う。
- 8 次第
 - 司会 伊藤公雄*（日本学術会議第一部会員、京都大学文学研究科教授）
後藤弘子*（日本学術会議第一部会員、千葉大学法政経学部教授）
 - 13:00 「ジェンダーの視点から選挙制度を考える」
三浦まり（上智大学法科大学院教授）
 - 13:30 「国際的視野からみた公職選挙法」
ケネス・マッケルウェイン（東京大学社会科学研究所准教授）
 - 14:00 「地方自治と選挙におけるポジティブ・アクション」
片山善博（慶応義塾大学法学部教授、元鳥取県知事）（交渉中）
 - 14:30 「選挙におけるポジティブアクション—憲法の視点から」
糠塚康江*（日本学術会議第一部会員、東北大学法学研究科教授）
 - 14:30-14:45 休憩
 - 14:45 コメント1 小林良彰*（日本学術会議連携会員、慶応義塾大学法学部教授）
 - 15:00 コメント2 辻村みよ子（日本学術会議連携会員、明治大学法科大学院教授）

15 : 15 全体討論

16 : 30 閉会

8 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の報告者は、主催分科会委員)

(※参考)

主催分科会の追加について

第一部政治学委員会
政治過程分科会委員長
西川伸一

2016年11月12日(土)開催の公開シンポジウム「女性参政権70周年 ジェンダーの視点から選挙制度を問う」の主催者につきまして、添付文書の下線部のとおり、当政治過程分科会も加えていただくようお願い申し上げます。

理由：本シンポジウムの報告者に当政治過程分科会の小林良彰連携会員が入っております。小林連携会員はわが国における政治過程論、とりわけ選挙分析の第一人者であり、研究代表者として2012年から2016年までの科研費・特別推進研究「政権交代期における政治意識の全国的時系列的調査研究」を採択されています。著書も『代議制民主主義の比較研究』(2014年、共著)、『政権交代』(2012年、単著)など多数に及びます。

当分科会が主催者に加わることで、政治過程論研究者に本シンポジウムについての周知を徹底することができ、もって政治過程論研究者がジェンダー的視点について理解を深めることに大きく貢献します。加えて、来場者の増加を期待できます。

なお、すでに主催者である社会学委員会ジェンダー政策分科会の伊藤公雄委員長、および法学委員会ジェンダー法分科会の後藤弘子委員長からは、当分科会が加わることにつきご理解をいただいています。

以上

公開シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして PART IV」
の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会アジア研究・対アジア関係に関する分科会、
東洋学・アジア研究連絡協議会
2. 日 時 平成 28 年 12 月 17 日（土）13：30～17：00
3. 場 所 東京大学法文 2 号館 1 番大教室
4. 分科会の開催 開催予定なし

5. 開催趣旨

今日、日本と世界の東洋学・アジア研究の衰退の危機を克服し、関連する学問の新たな振興をめざすことが求められている。それは、（1）21 世紀に生きる現代の人間としての観点に立って、東洋・アジアにおける個別的文化現象の諸価値を内在的に再構成するとともに、（2）こうした個別的な文化研究の積み重ねを総括する中で、東洋・アジアから世界に向かって発信する新しい人間科学（Human Sciences）を興こすためにも、大きな意味を持つ。東洋学・アジア研究に携わる多くの研究者は、自己の学問的ディシプリンや所属する研究機関・学協会の相異を超え、相互に連携・協同しあいながら危機に立ち向かっていく必要がある。その具体的な活動の一環として、昨年（2015 年）12 月に開催されたシンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして PART III」を踏まえ、今年度は「同 PART IV 一新資料が拓くアジア研究」の開催を企画する。

6. 次 第

開会挨拶：斎藤 明*（日本学術会議連携会員、国際仏教学大学院大学教授・東京大学名誉教授、東洋学・アジア研究連絡協議会会長）

総合司会：堀池信夫（日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授）

報告：井手誠之輔*（日本学術会議連携会員、九州大学大学院人文科学研究院教授）
「作品誌の観点と大徳寺伝来五百羅漢図」

平 辣 隆郎（東京大学東洋文化研究所教授）
「古文字資料の発見と伝統学術」

松田 和信（佛教大学仏教学部教授）
「アフガニスタン写本と仏教文献研究」

久保 亨*（日本学術会議第一部会員、信州大学人文学部教授）

「第23期日本学術会議・アジア研究・対アジア関係に関する分科会『提言：新たな情報化時代の人文的アジア研究に向けて』の骨子と背景」

総合討論：司会 堀池信夫（日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授）

閉会挨拶：池田知久（東京大学名誉教授、東洋学・アジア研究連絡協議会顧問）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、本分科会委員）

公開シンポジウム「第9回形態科学シンポジウム：
細胞を見て、生命を理解する高校生のための集い」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、
基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会
2. 後 援：日本細胞生物学会、日本解剖学会、日本顕微鏡学会、日本組織細胞化学会 大
阪府教育委員会
3. 協 賛：公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団
4. 日 時：平成28年11月12日（土）13：30～17：30
5. 場 所：大阪大学会館（大阪府豊中市待兼山町1-13）
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：生命科学研究に関心を持つ高校生に呼びかけ、生命科学研究の最前線を分
かりやすく解説する。また第一線の研究者と高校生が気軽に語り合う場を設け、将来の
生命科学研究を担う人材の啓発に資するものとしたい。
8. 次 第：
 - 13:30 はじめに
大隅良典（日本学術会議連携会員、東京工業大学フロンティア研究機構特任教
授）
 - 13:35 特別講演
司会：内山安男*（日本学術会議連携会員、順天堂大学大学院医学研究科特任教授）
 - 講演1 『超解像ライブイメージングで初めて分かった細胞内の活動』
中野明彦*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
 - 講演2 『シナプスの刈込みと可塑性』
渡辺雅彦*（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院医学研究科教授）
 - 15:20 高校生へのメッセージ
司会：米田悦啓（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研
究所理事長）
 - 16:30 総合討論
大隅良典（日本学術会議連携会員、東京工業大学フロンティア研究機構特任教
授）
内山安男（日本学術会議連携会員、順天堂大学大学院医学研究科特任教授）

中野明彦（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

渡辺雅彦（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院医学研究科教授）

米田悦啓（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所理事長）

17:30 おわりに

米田悦啓（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所理事長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「生態系サービスと農業生産」の開催について

1. 主 催：農学委員会植物保護科学分科会

2. 共 催：日本植物保護科学連合

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成28年12月3日（土）13：00～17：30

5. 場 所：東京大学農学部2号館化学第一教室

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

植物保護科学分科会は、研究活動の深化を図るため、植物保護を学術活動の基盤とする研究者集団である日本応用動物昆虫学会、日本植物病理学会、日本農薬学会、日本雑草学会、植物化学調節学会により設立された植物保護科学連合と連携し、これまで、さまざまな喫緊の課題を取り上げてシンポジウムを開催してきた。

われわれは様々な生態系機能の恩恵（生態系サービス）を受けているが、効率的な作物生産を目指す現代農業は種々の生態系サービスと両立できていない面もある。十分な食料生産を確保することで人間の生活基盤を維持しながら、かつ、生態系の持続性を維持していくことが課題となっていることから、農業と生態系サービスの関係や問題点について議論を深め、今後の研究活動の新たな展開を図る。

8. 次 第：

13：00～13：05

開会挨拶「シンポジウム開催にあたって」

上田一郎*（日本学術会議第二部会員、北海道大学理事・副学長）

13：05～13：45

「生物多様性は生態系サービスとどうかかわっているか？」

中 静 透（日本学術会議連携会員、東北大学大学院生命科学研究科教授）

座長：松本 宏*（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授）

13：45～14：20

「日本の農村・農業・農法にみる雑草植生との付き合い方」

嶺田拓也（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門上級研究員）

座長：與語靖洋（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境変動研究センター生物多様性研究領域長）

14：20～14：55

「生態系サービスと水稻栽培」

佐藤 智（山形大学農学部准教授）

座長：後藤千枝（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センター虫・鳥獣害研究領域研究領域長）

15：10～15：45

「イネ有機育苗培土における微生物叢のロバストネスと苗病害抑制現象」

高橋英樹（東北大学大学院農学研究科教授）

座長：吉田重信（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センター病害研究領域生態的防除グループ長）

15：45～16：20

「プラントアクチベーター（抵抗性誘導剤）による病害防除の現状と生態系への影響」

梅村賢司（Meiji Seika ファルマ（株）生物産業研究所室長）

座長：米山弘一（宇都宮大学バイオサイエンス教育センター教授）

16：20～16：55

「ストリゴラクトン生合成調節によるアーバスキュラー菌根共生制御の可能性」

秋山康紀（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

座長：浅見忠男（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16：55～17：30

総合討論

松本 宏*（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「食・農・健に関する国際フォーラム沼津ーGlobal Forum on Food, Agriculture and Quality of Life in Numazuー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会農業情報システム学分会、静岡県
2. 後 援：(社) AMF 研究機構，京都府立医科大学，東京農工大学，慶應義塾大学，理化学研究所，県内各関係機関等，関連学協会（すべて予定）
3. 日 時：平成 29 年 3 月 21 日（火）10:00～17:30
4. 場 所：静岡県沼津市ふじのくに千本松フォーラム（プラサウエルデ）
コンベンションホール B（静岡県沼津市魚町 1）
5. 分会の開催：予定なし

6. 開催趣旨：

医療費高騰や生活習慣病への対応ならびに食料の安定供給と健康な食生活の確保のために、医食同源による農業・食品分野と医療・健康分野の連携と協働が世界共通の課題となっている。静岡県は、日本有数の農業生産地であると同時に薬草生産量日本一でもあり、また多くの食品企業が集積している。これらの基盤の上に、先進的な「農・食・健」連携プロジェクトが推進され、平成 28 年には医農連携のアグロメディカルフーズ研究推進機構が組織された。静岡県におけるこれら「農・食・健」連携の取り組みを発展させるべく、国際的観点から医農連携の先端研究事例を紹介し、食品の生産・流通・消費に関わる多くの人々に向けて広く発信することを目的として、表題の国際フォーラムを開催する。

7. 次 第：

10:00 開会の挨拶

難波喬司（静岡県副知事）

澁澤 栄*（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

【午前の部：静岡県における先端農業の課題と展望】 10:30-12:30

座長 細谷勝彦（静岡県経済産業部農業戦略課長）

10:30 光計測技術を活用した次世代栽培システム（仮）

和田智之（理化学研究所光量子工学研究領域光量子技術基盤開発グループ グループディレクタ）

11:00 AI による農芸品の栽培技術継承（仮）

神成淳司（内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室室長代理，慶應義塾大学環境情報学部准教授）

11:30 企業プレゼンテーション

静岡県内企業 4 社を予定

【午後の部：アグロメディカルフーズの課題と展望】14:00-17:20

座長 大下誠一*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

14:00 アグロメディカルフーズの課題と展望（仮）

吉川敏一（京都府立医科大学学長，（一社）AMF 研究機構理事長）

14:20 食品流通ビジネスの世界動向と日本農業の可能性（仮）

バナハト マーク（AGビジネスコンサルタント社長）

14:50 健康増進と疾病予防に貢献する生理活性薬用物質（仮）

ス ヨンジュン（ソウル国立大学薬学部教授，微環境腫瘍中核研究センター長）

15:20 食品機能性研究の現状と医食農連携の課題（仮）

清水 誠（日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授）

15:50 地域包括ケアシステムにおける医と農の役割（仮）

宮田俊男（日本医療政策機構理事，内閣官房健康・医療戦略室戦略推進補佐官）

16:20 精密農業とアグロメディカルフーズ（仮）

澁澤 栄*（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

16:50 - 17:15 総合討論

17:15 閉会の挨拶

清水 浩*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「働く女性の健康ー予防医学を展望するー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会、日本産業衛生学会就労女性健康研究会・産業歯科保健部会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 29 年 5 月 12 日（金）16:00～18:00
5. 場 所：東京ビッグサイト T F K ビル 第 1 会場
6. 分科会の開催：予定なし

7. 開催趣旨：

女性が生き生き働くためには、現状を把握し、その課題と対策を検討することが必要である。このシンポジウムは働く女性の健康ー予防医学を展望するーをテーマとし、女性の視点からみた健康経営、健康管理・健康教育、ライフステージの視点から栄養管理、歯科保健に関する講演を通じて、職域の産業医・産業保健職および研究者が女性の健康や生活習慣病の一次予防に関して理解を深めることを目的とする。

8. 次 第：

座長：野原理子（東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学（一）教室准講師、就労女性健康研究会世話人）

森智恵子（（株）日立製作所京浜地区産業医療統括センタ新川崎健康管理センタ歯科診療室、産業歯科保健部会委員）

演題および演者：

1. 女性の視点からみた健康経営
江崎禎英（経済産業省ヘルスケア産業課課長）
2. 女性の視点からみた健康管理・健康教育
荒木葉子（荒木労働衛生コンサルタント事務所所長）
3. 女性のライフステージの視点から見た栄養管理
児玉浩子*（日本学術会議連携会員、帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授・学科長）
4. 女性のライフステージの視点からみた歯科保健
品田佳世子*（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院口腔疾患予防学分野教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「サービス学の参照基準」の開催について

1. 主 催：経営学委員会・総合工学委員会合同サービス学分科会
2. 後 援：国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術開発研究センター（予定）
サービス産業生産性協議会（予定）、サービス学会（予定）、日本消費者行動研究学会（予定）、特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合、経営学関連学会連合、公益社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会、公益社団法人日本経営工学会、特定非営利活動法人組織学会、日本経営学会、日本会計教育学会（予定）、日本経営システム学会（予定）、全国ビジネス系大学教育会議（予定）
3. 日 時：平成28年12月11日（日）13:00～16:30
4. 場 所：筑波大学 東京キャンパス 文京校舎 134教室
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：
日本学術会議は分野別質保証のための方法として、分野別の教育課程編成上の参照基準を策定することを進めてきた。その多くは学科編成が存在する分野である。サービス学は「サービスに関する総合的な学問体系」であり、従来、モノ中心に考えられてきたさまざまな技術、組織、社会システムなどの理解に無形財を加えて技術、組織、社会システムに新たな視点を提供するものである。このサービス学は、社会的に必要性が高いと認識されている学術分野であり、今後、学科を設置する要求が高まる。第3部総合工学委員会並びに第1部経営学委員会のもとに設置されたサービス学分科会において、サービス学の参照基準を制定したので、公開シンポジウムを開催し、教育・学術関係者を集め、参照基準の内容を広く議論し、適切な修正を図るとともに、サービス学の参照基準の周知を趣旨とする。
7. 次 第：
13:00～13:10 開会の挨拶（5～10分）
花木 啓祐 日本学術会議副会長、東京大学大学院工学系研究科教授（予定）
13:10～13:55 サービス学参照基準制定の経緯とその概要
西尾 チヅル*（日本学術会議連携会員、筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授）
13:55～16:20 参照基準(案)に対するパネルディスカッション
(1)13:55～14:10 コーディネータによる全体趣旨説明
山本 昭二（関西学院大学経営戦略科教授）
(2)14:10～14:22 参照基準(案)に対する文部科学省からの意見
（調整中）
(3)14:22～14:34 参照基準(案)に対する企業からの意見
高重 吉邦（富士通株式会社グローバルマーケティング本部 ポートフォリオ戦略統括部 統括部長）

- (4) 14:34～14:46 参照基準(案)に対するサービス学関係学会からの意見
原 辰徳 (東京大学人工物工学研究センター 准教授)
- (5) 14:46～14:58 参照基準(案)に対する経営学関係学会からの意見
(調整中)
- (6) 14:48～15:10 参照基準(案)に対する大学教育現場からの意見
小坂 満隆 (北陸先端科学技術大学院大学知識科学系教授)

15:10～15:20 <休憩>

- (7) 15:20～16:20 参照基準(案)に対するパネルディスカッション
コーディネータ並びに講師全員

16:20～16:30 閉会の挨拶

新井 民夫* (日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学教育イノベーション推進センター 教授)

8. 関係部の承認の有無：第一部、第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「3つのポリシー策定と分野別の参照基準」の開催について

1. 主 催：日本学術会議大学教育の分野別質保証委員会
2. 共 催：国立大学協会、公立大学協会、私立大学団体連合会、国立高等専門学校機構
3. 後 援：文部科学省、大学改革支援・学位授与機構、大学基準協会、高等教育評価機構、早稲田大学
4. 日 時：平成28年12月17日（土）13：00～17：00
5. 場 所：早稲田大学小野記念講堂
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：日本学術会議では分野別の参照基準の策定を進めており、現在25分野で作成・公表されている。こうした中、本年3月末に学校教育法施行規則が改正され、全国の大学等は卒業認定、教育課程、入学者受入れの3点に関する方針（ポリシー）を策定し、来年4月までに公表することが義務付けられた。

これら3つのポリシーに関して中教審が作成したガイドラインの中で、学術会議の参照基準を卒業認定のポリシー策定の参考資料とすることが言及されているが、分野別の参照基準とは具体的にどのようなものか、未だ大学関係者の間でも必ずしも十分に知られていないと思われる。

分野別の参照基準は、各分野の学問の本質を掘り下げて把握し、そこから学生がどのようなことを身に付けることができるのか考察した点に一つの重要な特色があるが、こうしたことが適切に理解され、各大学でのポリシーの策定に資するためにシンポジウムを開催する。

8. 次 第：

- | | |
|-------|--|
| 13：00 | 開会の挨拶
<u>大西 隆*（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長）</u> |
| 13：05 | 会場校による挨拶
<u>橋本周司（日本学術会議連携会員、早稲田大学副総長・理工学術院教授）</u> |
| 13：10 | 「分野別の参照基準と3つのポリシーの策定」
<u>北原和夫*（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授）</u> |
| 13：50 | 「言語・文学分野の参照基準について」
塩川徹也（東京大学名誉教授） |
| 14：05 | 「電気電子工学分野の参照基準について」
<u>保立和夫（日本学術会議第三部会員、東京大学理事・副学長、東京大学大学院工学系研究科教授）</u> |

- 14 : 20 「大学教育の質保証をめぐる近年の動向」
早田幸政（中央大学理工学部教授）
- 14 : 45 「分野別の参照基準とラーニングアウトカムズ」
松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
- 15 : 10－15 : 25 （ 休憩 ）
- 15 : 25 パネルディスカッション
モデレーター
吉田文*（日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）
広田照幸*（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）
- パネリスト
大西隆*（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長）
北原和夫*（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授）
早田幸政（中央大学理工学部教授）
松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
高祖敏明*（日本学術会議特任連携会員、学校法人上智学院理事長）
- 17 : 55 閉会の挨拶
北原和夫*（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授）

（*印の講演者は、主催委員会委員）